



Mint Club

ミントクラブ

18号

造幣局

国際連合加盟50周年記念千円銀貨幣プルーフ貨幣セットのご案内

この貨幣セットは、日本が、世界の平和と繁栄を希求して昭和31年(1956年)12月18日に国際連合に加盟してから今年で50周年となることを記念して発行された「国際連合加盟50周年記念千円銀貨幣」1枚を特製ケースに収納したプルーフ貨幣セットです。

この千円銀貨幣は、製造費用が額面価格を超えるもので、造幣局が製造費用を下回らない価格で販売するいわゆるプレミアム型の記念貨幣で、プルーフ仕上の彩色を施したカラーコインです。

販売価格 6,000円
販売数量 7万セット



記念貨幣の図柄について

国際連合加盟50周年記念千円銀貨幣の図柄について紹介します。



記念貨幣の表面の図柄は、貨幣中央部に日本の位置がわかるように地球を配し、その周囲に我が国が80番目の国連加盟国である象徴として日本を代表する花である桜花を8つと50周年を現わすつぼみを5つ図案化して配しています。

また、裏面の図柄は、貨幣中央部に国連のエンブレムを配しています。

造幣東京フェアの開催について

造幣局では、主要業務である貨幣の製造のほか、記念貨幣及びプルーフ貨幣セット等の販売、長年培った造幣技術を生かした勲章、金属工芸品の製造・販売、貴金属製品の品位証明、貴金属地金の精製・品位証明なども行っています。

「造幣東京フェア」は、多くの方々に、この造幣局の業務及び製品についてご理解を深めていただくため開催するもので、平成6年の第1回開催から、本年で13回目の開催となります。

本年は10月7日(土)から9日(月)までの間、昨年に引き続き造幣局東京支局構内の開催(9時から17時まで)を予定しています。

本年の造幣東京フェアは、近代貨幣の呼称として明治4年(1871年)に制定された「新貨条例」で新たに定められた「円」にスポットを当て、「円の誕生」を様々な角度から見ていくとともに、貨幣、勲章等の製造工程等を実物やパネルを交えて、わかりやすく紹介します。

また、七宝体験などいろいろと楽しめるイベントコーナーも企画しております。さらに、開催を記念した貨幣セットも販売する予定です。

お近くにお越しの際には是非お立ち寄りください。

【昨年のフェアの模様】



【会場周辺図】



造幣局東京支局(東京都豊島区東池袋4-42-1)

・交通機関

東京メトロ有楽町線「東池袋駅(4番出口)」より徒歩10分・都電荒川線「向原駅」より徒歩5分・東京メトロ各線、西武池袋線、東武東上線、JR「池袋駅(東口)」より徒歩15分・JR「大塚駅(南口)」より徒歩10分
・お問い合わせ先:総務課(文書広報担当) 03-3987-3521



貨幣は、経済的機能のみならず一国の文化を象徴する機能をも有しており、古来より世界各国において、格調があり、かつ親しみやすいデザインの貨幣を造る試みがなされてきました。

国際コイン・デザイン・コンペティション(ICDC)は、造幣局が、国内のみならず広く海外からデザインを募ることにより、貨幣デザインの芸術性の向上を目指すべく、1998年(平成10年)から開催しております。

今後このコンペティションが回を重ね、優れた貨幣デザインの更なる発掘につながることを願ってやみません。



ICDC 2005メダルのご案内

前号のミントクラブでお申込み受付をさせていただきました「ICDC 2005メダル」ですが、前回、お買い忘れ、追加の希望等がございましたら、若干の在庫がございますので、以下の申込要領によりご案内させていただきます。

なお、数量に限りがありますので、お申込みいただいた方全員にご購入いただけない場合もあります。予めご承知ください。



図柄はイメージで商品とは多少異なります。

メダル仕様等

- ・材質：純銀
- ・直径：30mm
- ・重量：13.5g
- ・仕上：ブルーフライク仕上
- ・販売価格：4,500円(税・送料込み)

申込要領

- ・申込数：申込数の制限はありません。(先着順)
- ・申込期限：平成18年9月30日(土)(消印有効)
- ・申込方法：お電話でお申込みください。
造幣局お客様サービスセンター
TEL 06-6351-2626
- ・発送時期：平成18年10月上旬頃から順次発送いたします。

货币の誕生とその発展

前回、ミントクラブ第15号に寄稿いただいた三菱東京UFJ銀行(旧UFJ銀行)貨幣資料館長に、今回は「货币の誕生とその発展」について執筆していただきました。



三菱東京UFJ銀行
貨幣資料館
館長 工藤 洋久

日本最古の貨幣は、和銅元年(708年)に中国の技術を導入して発行された和同開珎(わどうかいちん・かいほう)とされていますが、近年、富本錢(ふほんせん)の工房跡が発見され、最古の貨幣は25年近く遡る可能性が出てきており、解明のため調査・研究が進められています。



富本錢

日本最古の貨幣と考えられる銅銭で、7世紀後半に飛鳥の藤原京で作られました。



和同開珎

唐の開元通宝を手本に鋳造されたといわれています。

それでは、世界最古の貨幣はいつ頃どこで発生したのでしょうか?

1.世界最古の貨幣は中国で誕生(物々交換から金属貨幣へ)

歴史上最古の貨幣は、紀元前13世紀頃の中国・殷(いん)時代の貝貨(かいか・ばいか)といわれています。貝貨は宝貝で、今の台湾やベトナム近辺から黄河の上流まで運搬し、権力者の装身具として使用されました。これに価値の基準と交換機能が付与されたのでした。現在の漢字の「貝」は宝貝(たからがい)の象形文字であり、通貨・金融に関する文字、例えば貸・財・買・貯・債・費・債・貧などには「貝」の文字が組み込まれており、貨幣のルーツが貝であることが示されています。貝貨も流通が盛んになるにつれて金属(青銅)で製造され、紀元前3世紀頃、秦の始皇帝によって通貨制度が統一されて、円形方孔の銅銭いわゆる「錢」が誕生するのです。



原貝貨



骨製貝貨



石製貝貨



銅製貝貨

貝貨は、装身具として珍重されました。

2. ヨーロッパ最古の貨幣は?

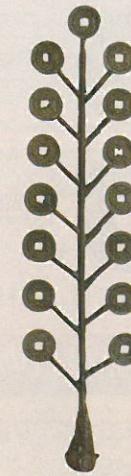
一方、ヨーロッパ最古の貨幣は、紀元前7世紀の古代ギリシャ時代に現在のトルコの一部で地中海に面した地域に繁栄したリュディア王国で発行されたものと特定されています。この貨幣は、金と銀との自然合金であるエレクトラムでできた貨幣でした。当時の精鍛技術では、まだ金と銀を分離できずに単に貴金属貨幣として発行されたものでした。



リュディア王国ステーター金貨
【ヨーロッパ最古の金貨】
(紀元前7世紀)

3. 洋の東西による貨幣製造の違い

中国を発祥とする東洋文化圏の貨幣製造技術は、溶けた金属を鋳型に流し込む「鋳造」という方法が採されました。これは青銅という銅より硬い金属を大量生産するには好都合でした。鋳型をはずしたばかりの状態は、製作前のプラモデルのように湯道(ゆみち)で繋がっており、この形から「金のなる木」という言葉が生まれました。現在でもこの鋳造技術は文鎮や鉄瓶、お寺の梵鐘などを生産する時に生かされています。



金のなる木

一方、西洋では金や銀・銅という青銅に比べて軟らかい金属を貨幣に使用していたので、一定の大きさの金属板に模様をつけた刻印を打ち付ける「プレス(打刻)」方式で製造していました。

古くは鋳造法の方が量産に適していましたが、産業革命による近代化によりプレス方式での生産が飛躍的に発展し、現在では世界中の国がプレス方式を採用しています。

4. 日本貨幣の近代化と造幣局

日本では幕末の寛永通宝まで約1160年の間、銭は鋳造方式で製造されていました。明治新政府は産業の近代化を急務とし、その一環として通貨改革に着手しました。そこでイギリスから機械を購入し、お雇い外国人を招聘して大阪に造幣局を建設しました。そして明治4年(1871年)に「新貨条例」を発布し、円・銭・厘の新呼称による10進法の通貨が発行されました。その後幾多の変遷を経て常に世界最高水準の技術を導入しながら現在に至っています。



寛永通宝



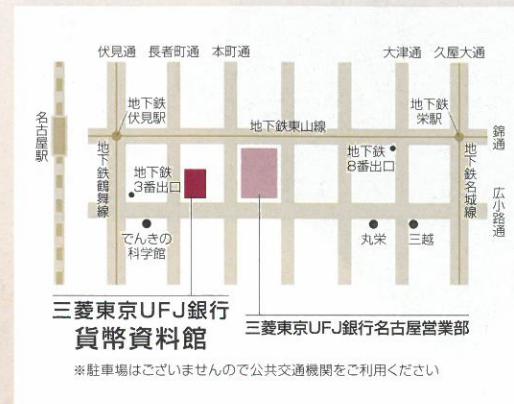
20円金貨

〈三菱東京UFJ銀行貨幣資料館の紹介〉

三菱東京UFJ銀行貨幣資料館は、日本および世界各国の紀元前からの珍しい貨幣約1万点を体系的に展示し、日本有数のコレクションとして高く評価されています。

また、「東海道五拾三次」に代表される歌川廣重の版画類も所蔵・展示し、「お金の歴史」や「江戸時代の浮世絵芸術」を入館無料で、身近に鑑賞していただけます。

建物は昭和元年(1926年)に建設され、三菱東京UFJ銀行の前身の一社である東海銀行の旧本部として使用した建物です。当時の銀行建築として名古屋を代表するものであり、近代建築史上貴重な文化財と評価され、現在は名古屋市都市景観重要建築物に指定されています。



- 入館料：無料
(団体見学の方は事前にご連絡下さい)
- 開館時間：平日9:00～16:00
(入館は15:30まで)
- 休館日：土・日・祝日(銀行窓口休業日)
- 交通：地下鉄伏見駅3番出口徒歩4分
地下鉄栄駅8番出口徒歩6分
- 所在地：〒460-8660
名古屋市中区錦2丁目20番25号
TEL.(052)211-1111(代)
- ホームページ：<http://www.bk.mufg.jp>

平成18年10月～12月の貨幣セット販売予定

販売区分	名 称	販売価格	受付開始時期
通信販売	貨幣をテーマとするブルーフセット	13,000円	受付開始時にDMでお知らせします。
	2006セントラルリーグ優勝記念セット	2,200円	
	2006パシフィックリーグ優勝記念セット	2,200円	
	南極地域観測50周年記念500円ニッケル黄銅貨幣入り平成19年銘貨幣セット	未 定	
通年販売	平成18年銘ジャパンセット	1,900円	造幣局構内ミントショップ、オンラインショップで販売中。 電話でも受付中。(06-6351-2626)
	平成18年銘記念日セット	2,000円	
	平成18年銘ペーパーウェイト	3,900円	



菱形少女牌。フランス。青銅。頂角からの対角線で74.56mm。各邊の長さ54mm。重量95g。

此のメダルは表だけで、裏は全く平滑無地である。此の様な片面だけのメダルをuniface medalと云ふ。

角を丸めた菱形の中に圓形に淺い凹みをつけ、そこに少女の右向の横顔を薄肉で表してゐる。レリーフは柔らかみがあつて上手い。少女の首の後に「JOS.PRINZ」の彫込署名がある。

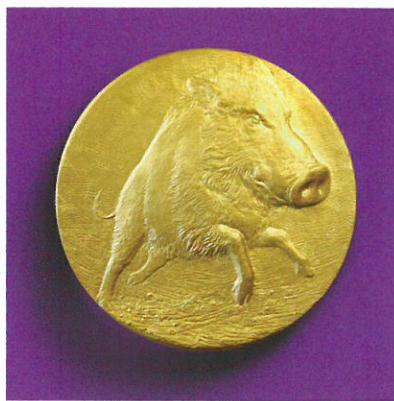
作者のヨゼフ・プランツ (Josef Prinz) に就ては詳細は判つてゐないがユugoスラヴィアの人らしく、ダカット貨の貨幣原型も製作したらしい。二十世紀の前半に活動した人である。

(元工藝管理官 松岡隆範 記)

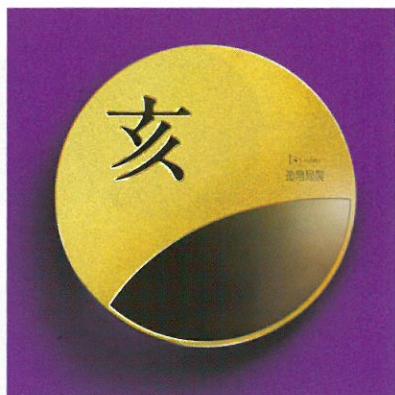
(本稿は、筆者の意向を尊重して筆者の表記をそのまま掲載しています。)

純金「干支メダル」の販売について

表面



裏面



<原寸大>

図柄はイメージで商品とは多少異なります。

造幣局では、貨幣や勲章の製造で培った技術を活かし、皆様の多様なニーズに応えたメダル・銀盃・飾り額などの金属工芸品を製造販売しています。

平成17年から、皆様に大変馴染み深い「干支」をテーマとした純金メダルを販売しています。昨年の「戌(いぬ)」に引き続き、本年は、「亥(いのしし)」を題材にした純金メダルを販売することとしました。

メダルの表面には、躍動感あふれる猪をデザインし、裏面は丘を表現しております。

新しい年を記念して、お客様のコレクションの一つに干支メダルをお加えいただき、未永くご愛顧いただければ幸いです。

メダル仕様等

- ・ 材 質：純金(造幣局品位証明刻印入り)
- ・ 直 径：40mm
- ・ 重 さ：約95g
- ・ そ の 他：裏面ブルーフ仕上げ、化粧ケース入り
- ・ 販 売 価 格：360,000円(税・送料込み)
- ・ 販 売 予 定 数：300個

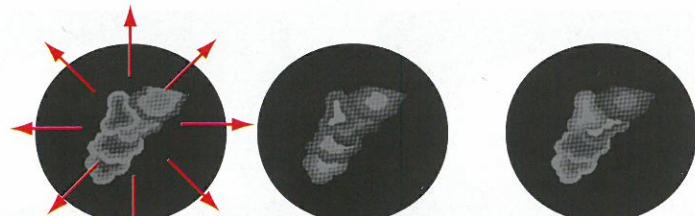
(お申込み状況によっては数量
を変更する場合があります。)

申込要領

- ・ 申 込 数：申込数の制限はありません。
- ・ 申込期限：平成18年9月30日(土)(消印有効)
- ・ 申込方法：同封の申込はがきでお申込みください。
- ・ 発送時期：平成18年10月中旬頃から順次発送いたします。

グラデーション潜像技術

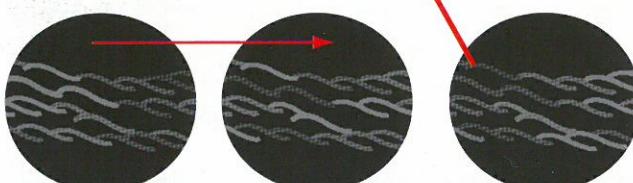
グラデーション潜像技術は、見る角度によって、表面の図柄の部分が動くように見えるもので、このメダルでは、表面の図柄のうち、「煙」「外輪」「波」の三種類の模様が動くように見えます。



1. 煙が中心から外に向ってなびくように見えます



2. 外輪が左回りに回転して見えます



3. 波が右に流れしていくように見えます

グラデーションメダル(外輪蒸気船)の販売について

このメダルの表面の図柄は、明治時代に河川を航行していた外輪蒸気船をテーマとし、蒸気船の煙突から立ち上る煙、蒸気船の外輪部が回転する様子、船の進行とともに発生する波をグラデーションで表現しています。裏面には、蒸気船の航行当時の造幣局の建物をデザインしています。



表面



<原寸大>

裏面

図柄はイメージで商品とは多少異なります。

メダル仕様等

- ・材 質：純銀(造幣局品位証明刻印入り)
- ・直 径：60mm
- ・重 さ：約160g
- ・厚 さ：約5.5mm
- ・そ の 他：化粧ケース入り
- ・販 売 価 格：19,500円(税・送料込み)
- ・販 売 預 定 数：3,000個(お申込み状況によっては数量を変更する場合があります。)

申込要領

- ・申込数：申込数の制限はありません。
- ・申込期限：平成18年9月30日(土)(消印有効)
- ・申込方法：同封の申込はがきでお申込みください。
- ・発送時期：平成18年10月中旬頃から順次発送いたします。

このミントクラブはエコマーク商品に認定された再生紙を使用しています

ISO14001取得
ISO 9001取得



JQA-OM9665
JQA-EM5105

発行所 独立行政法人 造幣局

〒530-0043 大阪市北区天満1丁目1番79号

電 話 06(6351)6928

造幣局ホームページ <http://www.mint.go.jp/>

編集兼発行 事業部販売事業課顧客サービス室

平成18年9月12日発行(第18号)



Japan Mint